

ローマ人への手紙

Romans

新約聖書

第1章

- 1 キリスト・イエスのしもべ、神の福音のために選び出され、使徒として召されたパウロから。
- 2 一この福音は、神がご自分の預言者たちを通して、聖書にあらかじめ約束されたもので、
- 3 御子に関するものです。御子は、肉によればダビデの子孫から生まれ、
- 4 聖なる霊によれば、死者の中からの復活により、力ある神の子として公に示された方、私たちの主イエス・キリストです。
- 5 この方によって、私たちは恵みと使徒の務めを受けました。御名のために、すべての異邦人の中に信仰の従順をもたらすためです。
- 6 その異邦人たちの中であって、あなたがたも召されてイエス・キリストのものとなりました—
- 7 ローマにいるすべての、神に愛され、召された聖徒たちへ。私たちの父なる神と主イエス・キリストから、恵みと平安があなたがたにありますように。
- 8 まず初めに、私はあなたがたすべてについて、イエス・キリストを通して私の神に感謝します。全世界であなたがたの信仰が語り伝えられているからです。
- 9 私が御子の福音を伝えつつ心から仕えている神が証ししてくださることですが、私は絶えずあなたがたのことを思い、
- 10 祈るときにはいつも、神のみこころによって、今度こそついに道が開かれ、何とかしてあなたがたのところに行けるようにと願っています。
- 11 私があなたがたに会いたいと切に望むのは、御霊の賜物をいくらかでも分け与えて、あなたがたを強くしたいからです。
- 12 というより、あなたがたの間であって、あなたがたと私の互いの信仰によって、ともに励ましを受けたいのです。
- 13 兄弟たち、知らずにいてほしくはありません。私はほかの異邦人たちの間で得たように、あなたがたの間でもいくらかの実を得ようと、何度もあなたがたのところに行く計画を立てましたが、今に至るまで妨げられてきました。
- 14 私は、ギリシア人にも未開の人にも、知識のある人にも知識のない人にも、負い目のある者です。
- 15 ですから私としては、ローマにいるあなたがたにも、ぜひ福音を伝えたいのです。
- 16 私は福音を恥としません。福音は、ユダヤ人をはじめギリシア人にも、信じるすべての人に救いをもたらす神の力です。
- 17 福音には神の義が啓示されていて、信仰に始まり信仰に進ませるからです。「義人は信仰によって生きる」と書いてあるとおりです。
- 18 というのは、不義によって真理を阻んでいる人々のあらゆる不敬虔と不義に対して、神の怒りが天から啓示されているからです。
- 19 神について知りうることは、彼らの間で明らかです。神が彼らに明らかにされたのです。
- 20 神の、目に見えない性質、すなわち神の永遠の力と神性は、世界が創造されたときから被造物を通して知られ、はっきりと認められるので、彼らに弁解の余地はありません。
- 21 彼らは神を知っていながら、神を神としてあがめず、感謝もせず、かえってその思いはむなしくなり、その鈍い心は暗くなったのです。
- 22 彼らは、自分たちは知者であると主張しながら愚かになり、

- 23 朽ちない神の栄光を、朽ちる人間や、鳥、獣、這うものに似たかたちと替えてしまいました。
- 24 そこで神は、彼らをその心の欲望のままに汚れに引き渡されました。そのため、彼らは互いに自分たちのからだを辱めています。
- 25 彼らは神の真理を偽りと取り替え、造り主の代わりに、造られた物を拝み、これに仕えました。造り主こそ、とこしえにほめたたえられる方です。アーメン。
- 26 こういうわけで、神は彼らを恥ずべき情欲に引き渡されました。すなわち、彼らのうちの女たちは自然な関係を自然に反するものに替え、
- 27 同じように男たちも、女との自然な関係を捨てて、男同士で情欲に燃えました。男が男と恥ずべきことを行い、その誤りに対する当然の報いをその身に受けています。
- 28 また、彼らは神を知ることによって価値を認めなかったため、神は彼らに無価値な思いに引き渡されました。それで彼らは、してはならないことを行っているのです。
- 29 彼らは、あらゆる不義、悪、貪欲、悪意に満ち、ねたみ、殺意、争い、欺き、悪巧みにまみれています。また彼らは陰口を言い、
- 30 人を中傷し、神を憎み、人を侮り、高ぶり、大言壮語し、悪事を企み、親に逆らい、
- 31 浅はかで、不誠実で、情け知らずで、無慈悲です。
- 32 彼らは、そのような行いをする者たちが死に値するという神の定めを知りながら、自らそれを行っているだけでなく、それを行う者たちに同意もしているのです。

第2章

- 1 ですから、すべて他人をさばく者よ、あなたに弁解の余地はありません。あなたは他人をさばくことで、自分自身にさばきを下しています。さばくあなたが同じことを行っているからです。
- 2 そのようなことを行う者たちの上に、真理に基づいて神のさばきが下ることを、私たちは知っています。
- 3 そのようなことを行う者たちをさばきながら、同じことを行っている者よ、あなたは神のさばきを免れるとでも思っているのですか。
- 4 それとも、神のいつくしみ深さがあなたを悔い改めに導くことも知らないで、その豊かないつくしみと忍耐と寛容を軽んじているのですか。
- 5 あなたは、頑なで悔い改める心がないために、神の正しいさばきが現れる御怒りの日の怒りを、自分のために蓄えています。
- 6 神は、一人ひとり、その人の行いに応じて報いられます。
- 7 忍耐をもって善を行い、栄光と誉れと朽ちないものを求める者には、永遠のいのちを与え、
- 8 利己的な思いから真理に従わず、不義に従う者には、怒りと憤りを下されます。
- 9 悪を行うすべての者の上には、ユダヤ人をはじめギリシア人にも、苦難と苦悩が下り、
- 10 善を行うすべての者には、ユダヤ人をはじめギリシア人にも、栄光と誉れと平和が与えられます。
- 11 神にはえこひいきがないからです。
- 12 律法なしに罪を犯した者はみな、律法なしに滅び、律法の下にあって罪を犯した者はみな、律法によってさばかれます。

- 13 なぜなら、律法を聞く者が神の前に正しいのではなく、律法を行う者が義と認められるからです。
- 14 律法を持たない異邦人が、生まれつきのままで律法の命じることを行う場合は、律法を持たなくても、彼ら自身が自分に対する律法なのです。
- 15 彼らは、律法の命じる行いが自分の心に記されていることを示しています。彼らの良心も証ししていて、彼らの心の思いは互いに責め合ったり、また弁明し合ったりさえするのです。
- 16 私の福音によれば、神のさばきは、神がキリスト・イエスによって、人々の隠された事柄をさばかれるその日に行われるのです。
- 17 あなたが自らユダヤ人と称し、律法を頼みとし、神を誇り、
- 18 みこころを知り、律法から教えられて、大切なことをわきまえているなら、
- 19 また、律法のうちに具体的に示された知識と真理を持っているので、目の見えない人の案内人、闇の中にいる者の光、愚かな者の導き手、幼子の教師だ、と自負しているなら、
- 20 [前節と合節]
- 21 どうして、他人を教えながら、自分自身を教えないのですか。盗むなど説きながら、自分は盗むのですか。
- 22 姦淫するなど言いながら、自分は姦淫するのですか。偶像を忌み嫌いながら、神殿の物をかすめ取るのですか。
- 23 律法を誇りとするあなたは、律法に違反することで、神を侮っているのです。
- 24 「あなたがたのゆえに、神の御名は異邦人の間で汚されている」と書いてあるとおりです。
- 25 もしあなたが律法を行うなら、割礼には価値があります。しかし、もしあなたが律法の違反者であるなら、あなたの割礼は無割礼になったのです。
- 26 ですから、もし割礼を受けていない人が律法の規定を守るなら、その人の無割礼は割礼と見なされるのではないのでしょうか。
- 27 からだは無割礼でも律法を守る人が、律法の文字と割礼がありながらも律法に違反するあなたを、さばくこととなります。
- 28 外見上のユダヤ人がユダヤ人ではなく、また、外見上のからだの割礼が割礼ではないからです。
- 29 かえって人目に隠れたユダヤ人がユダヤ人であり、文字ではなく、御霊による心の割礼こそ割礼だからです。その人への称賛は人からではなく、神から来ます。

第3章

- 1 それでは、ユダヤ人のすぐれている点は何ですか。割礼に何の益があるのですか。
- 2 あらゆる点から見て、それは大いにあります。第一に、彼らは神のことばを委ねられました。
- 3 では、どうですか。彼らのうちに不真実な者がいたなら、その不真実は神の真実を無にするのでしょうか。
- 4 決してそんなことはありません。たとえすべての人が偽り者であるとしても、神は真実な方であるとすべきです。「それゆえ、あなたが告げるとき、あなたは正しくあられ、さばくとき、勝利を得られます」と書いてあるとおりです。

- 5 では、もし私たちの不義が神の義を明らかにするのなら、私たちはどのように言うべきでしょうか。私は人間的な言い方をしますが、御怒りを下す神は不義なのでしょうか。
- 6 決してそんなことはありません。もしそうなら、神はどのようにして世界をさばかれるのですか。
- 7 では、もし私の偽りによって神の真理がますます明らかにされて、神の栄光となるのなら、どうして私はなおも罪人としてさばかれるのですか。
- 8 「善をもたらすために悪を行おう」ということになりませんか。私たちがそう言っていると、ある者たちから中傷されています。そのように中傷する者たちが、さばきを受けるのは当然です。
- 9 では、どうなのでしょう。私たちにすぐれているところはあるのでしょうか。全くありません。私たちがすでに指摘したように、ユダヤ人もギリシア人も、すべての人が罪の下にあるからです。
- 10 次のように書いてあるとおりです。「義人はいない。一人もいない。
- 11 悟る者はいない。神を求める者はいない。
- 12 すべての者が離れて行き、だれもかれも無用の者となった。善を行う者はいない。だれ一人いない。」
- 13 「彼らの喉は開いた墓。彼らはその舌で欺く。」 「彼らの唇の下にはまむしの毒がある。」
- 14 「彼らの口は、呪いと苦みに満ちている。」
- 15 「彼らの足は血を流すのに速く、
- 16 彼らの道には破壊と悲惨がある。
- 17 彼らは平和の道を知らない。」
- 18 「彼らの目の前には、神に対する恐れがない。」
- 19 私たちは知っています。律法が言うことはみな、律法の下にある者たちに対して語られているのです。それは、すべての口がふさがれて、全世界が神のさばきに服するためです。
- 20 なぜなら、人はだれも、律法を行うことによって神の前に義と認められないからです。律法を通して生じるのは罪の意識です。
- 21 しかし今や、律法とは関わりなく、律法と預言者たちの書によって証しされて、神の義が示されました。
- 22 すなわち、イエス・キリストを信じることによって、信じるすべての人に与えられる神の義です。そこに差別はありません。
- 23 すべての人は罪を犯して、神の栄光を受けることができず、
- 24 神の恵みにより、キリスト・イエスによる贖いを通して、価なしに義と認められるからです。
- 25 神はこの方を、信仰によって受けるべき、血による宥めのささげ物として公に示されました。ご自分の義を明らかにされるためです。神は忍耐をもって、これまで犯されてきた罪を見逃してこられたのです。
- 26 すなわち、ご自分が義であり、イエスを信じる者を義と認める方であることを示すため、今この時に、ご自分の義を明らかにされたのです。
- 27 それでは、私たちの誇りはどこにあるのでしょうか。それは取り除かれました。どのような種類の律法によってでしょうか。行いの律法でしょうか。いいえ、信仰の律法によってです。

- 28 人は律法の行いとは関わりなく、信仰によって義と認められると、私たちは考えているからです。
- 29 それとも、神はユダヤ人だけの神でしょうか。異邦人の神でもあるのではないのでしょうか。そうです。異邦人の神でもあります。
- 30 神が唯一なら、そうです。神は、割礼のある者を信仰によって義と認め、割礼のない者も信仰によって義と認めてくださるのです。
- 31 それでは、私たちは信仰によって律法を無効にすることになるのでしょうか。決してそんなことはありません。むしろ、律法を確立することになります。

第4章

- 1 それでは、肉による私たちの父祖アブラハムは何を見出した、と言えるのでしょうか。
- 2 もしアブラハムが行いによって義と認められたのであれば、彼は誇ることができます。しかし、神の御前ではそうではありません。
- 3 聖書は何と言っていますか。「アブラハムは神を信じた。それで、それが彼の義と認められた」とあります。
- 4 働く者にとっては、報酬は恵みによるものではなく、当然支払われるべきものと見なされません。
- 5 しかし、働きがない人であっても、不敬虔な者を義と認める方を信じる人には、その信仰が義と認められます。
- 6 同じようにダビデも、行いと関わりなく、神が義とお認めになる人の幸いを、このように言っています。
- 7 「幸いなことよ、不法を赦され、罪をおおわれた人たち。
- 8 幸いなことよ、主が罪をお認めにならない人。」
- 9 それでは、この幸いは、割礼のある者にだけ与えられるのでしょうか。それとも、割礼のない者にも与えられるのでしょうか。私たちは、「アブラハムには、その信仰が義と認められた」と言っていますが、
- 10 どのようにして、その信仰が義と認められたのでしょうか。割礼を受けてからですか。割礼を受けていないときですか。割礼を受けてからではなく、割礼を受けていないときです。
- 11 彼は、割礼を受けていないときに信仰によって義と認められたことの証印として、割礼というしるしを受けたのです。それは、彼が、割礼を受けないままで信じるすべての人の父となり、彼らも義と認められるためであり、
- 12 また、単に割礼を受けているだけではなく、私たちの父アブラハムが割礼を受けていなかったときの信仰の足跡にしたがって歩む者たちにとって、割礼の父となるためでした。
- 13 というのは、世界の相続人となるという約束が、アブラハムに、あるいは彼の子孫に与えられたのは、律法によってではなく、信仰による義によってであったからです。
- 14 もし律法による者たちが相続人であるなら、信仰は空しくなり、約束は無効になってしまいます。
- 15 実際、律法は御怒りを招くものです。律法のないところには違反もありません。
- 16 そのようなわけで、すべては信仰によるのです。それは、事が恵みによるようになるためです。こうして、約束がすべての子孫に、すなわち、律法を持つ人々だけでなく、アブラハムの

信仰に倣う人々にも保証されるのです。アブラハムは、私たちすべての者の父です。

- 17 「わたしはあなたを多くの国民の父とした」と書いてあるとおりです。彼は、死者を生かし、無いものを有るものとして召される神を信じ、その御前で父となったのです。
- 18 彼は望み得ない時に望みを抱いて信じ、「あなたの子孫は、このようになる」と言われていたとおり、多くの国民の父となりました。
- 19 彼は、およそ百歳になり、自分のからだですでに死んだも同然であること、またサラの胎が死んでいることを認めても、その信仰は弱まりませんでした。
- 20 不信仰になって神の約束を疑うようなことはなく、かえって信仰が強められて、神に栄光を歸し、
- 21 神には約束したことを実行する力がある、と確信していました。
- 22 だからこそ、「彼には、それが義と認められた」のです。
- 23 しかし、「彼には、それが義と認められた」と書かれたのは、ただ彼のためだけでなく、
- 24 私たちのためでもあります。すなわち、私たちの主イエスを死者の中からよみがえらせた方を信じる私たちも、義と認められるのです。
- 25 主イエスは、私たちの背きの罪のゆえに死に渡され、私たちが義と認められるために、よみがえられました。

第5章

- 1 こうして、私たちは信仰によって義と認められたので、私たちの主イエス・キリストによって、神との平和を持っています。
- 2 このキリストによって私たちは、信仰によって、今立っているこの恵みに導き入れられました。そして、神の栄光にあずかる望みを喜んでいます。
- 3 それだけではなく、苦難さえも喜んでいます。それは、苦難が忍耐を生み出し、
- 4 忍耐が練られた品性を生み出し、練られた品性が希望を生み出すと、私たちは知っているからです。
- 5 この希望は失望に終わることがありません。なぜなら、私たちに与えられた聖霊によって、神の愛が私たちの心に注がれているからです。
- 6 実にキリストは、私たちがまだ弱かったころ、定められた時に、不敬虔な者たちのために死んでくださいました。
- 7 正しい人のためであっても、死ぬ人はほとんどいません。善良な人のためなら、進んで死ぬ人がいるかもしれません。
- 8 しかし、私たちがまだ罪人であったとき、キリストが私たちのために死なれたことによって、神は私たちに対するご自分の愛を明らかにしておられます。
- 9 ですから、今、キリストの血によって義と認められた私たちが、この方によって神の怒りから救われるのは、なおいっそう確かなことです。
- 10 敵であった私たちが、御子の死によって神と和解させていただいたのなら、和解させていただいた私たちが、御子のいのちによって救われるのは、なおいっそう確かなことです。
- 11 それだけではなく、私たちの主イエス・キリストによって、私たちは神を喜んでいます。キリストによって、今や、私たちは和解させていただいたのです。

- 12 こういうわけで、ちょうど一人の人によって罪が世界に入り、罪によって死が入り、こうして、すべての人が罪を犯したので、死がすべての人に広がったのと同様に――
- 13 実に、律法が与えられる以前にも、罪は世にあったのですが、律法がなければ罪は罪として認められないのです。
- 14 けれども死は、アダムからモーセまでの間も、アダムの違反と同じようには罪を犯さなかった人々さえも、支配しました。アダムは来たるべき方のひな型です。
- 15 しかし、恵みの賜物は違反の場合と違います。もし一人の違反によって多くの人が死んだのなら、神の恵みと、一人の人イエス・キリストの恵みによる賜物は、なおいっそう、多くの人に満ちあふれるのです。
- 16 また賜物は、一人の人が罪を犯した結果とは違います。さばきの場合は、一つの違反から不義に定められましたが、恵みの場合は、多くの違反が義と認められるからです。
- 17 もし一人の違反により、一人によって死が支配するようになったのなら、なおさらのこと、恵みと義の賜物をあふれるばかり受けている人たちは、一人の人イエス・キリストにより、いのちにあって支配するようになるのです。
- 18 こういうわけで、ちょうど一人の違反によってすべての人が不義に定められたのと同様に、一人の義の行為によってすべての人が義と認められ、いのちを与えられます。
- 19 すなわち、ちょうど一人の人の不従順によって多くの人が罪人とされたのと同様に、一人の従順によって多くの人が義人とされるのです。
- 20 律法が入って来たのは、違反が増し加わるためでした。しかし、罪の増し加わるところに、恵みも満ちあふれました。
- 21 それは、罪が死によって支配したように、恵みもまた義によって支配して、私たちの主イエス・キリストにより永遠のいのちに導くためなのです。

第6章

- 1 それでは、どのように言うべきでしょうか。恵みが増し加わるために、私たちは罪にとどまるべきでしょうか。
- 2 決してそんなことはありません。罪に対して死んだ私たちが、どうしてなおも罪のうちに生きていられるでしょうか。
- 3 それとも、あなたがたは知らないのですか。キリスト・イエスにつくバプテスマを受けた私たちはみな、その死にあずかるバプテスマを受けたではありませんか。
- 4 私たちは、キリストの死にあずかるバプテスマによって、キリストとともに葬られたのです。それは、ちょうどキリストが御父の栄光によって死者の中からよみがえられたように、私たちも、新しいいのちに歩むためです。
- 5 私たちがキリストの死と同じようになると、キリストと一つになっているなら、キリストの復活とも同じようになるからです。
- 6 私たちは知っています。私たちの古い人がキリストとともに十字架につけられたのは、罪のからだか滅ぼされて、私たちがもはや罪の奴隷でなくなるためです。
- 7 死んだ者は、罪から解放されているのです。
- 8 私たちがキリストとともに死んだのなら、キリストとともに生きることにもなる、と私たちは信じています。

- 9 私たちは知っています。キリストは死者の中からよみがえって、もはや死ぬことはありません。死はもはやキリストを支配しないのです。
- 10 なぜなら、キリストが死なれたのは、ただ一度罪に対して死なれたのであり、キリストが生きておられるのは、神に対して生きておられるのだからです。
- 11 同じように、あなたがたもキリスト・イエスにあって、自分は罪に対して死んだ者であり、神に対して生きている者だと、認めなさい。
- 12 ですから、あなたがたの死ぬべきからだを罪に支配させて、からだの欲望に従ってはいけません。
- 13 また、あなたがたの手足を不義の道具として罪に献げてはいけません。むしろ、死者の中から生かされた者としてあなたがた自身を神に献げ、また、あなたがたの手足を義の道具として神に献げなさい。
- 14 罪があなたがたを支配することはないからです。あなたがたは律法の下にではなく、恵みの下にあるのです。
- 15 では、どうなのでしょう。私たちは律法の下にではなく、恵みの下にあるのだから、罪を犯そう、となるのでしょうか。決してそんなことはありません。
- 16 あなたがたは知らないのですか。あなたがたが自分自身を奴隷として献げて服従すれば、その服従する相手の奴隷となるのです。つまり、罪の奴隷となって死に至り、あるいは従順の奴隷となって義に至ります。
- 17 神に感謝します。あなたがたは、かつては罪の奴隷でしたが、伝えられた教えの規範に心から服従し、
- 18 罪から解放されて、義の奴隷となりました。
- 19 あなたがたの肉の弱さのために、私は人間的な言い方をしています。以前あなたがたは、自分の手足を汚れと不法の奴隷として献げて、不法に進みました。同じように、今はその手足を義の奴隷として献げて、聖潔に進みなさい。
- 20 あなたがたは、罪の奴隷であったとき、義については自由にふるまっていました。
- 21 ではそのころ、あなたがたはどんな実を得ましたか。今では恥ずかしく思っているものです。それらの行き着くところは死です。
- 22 しかし今は、罪から解放されて神の奴隷となり、聖潔に至る実を得ています。その行き着くところは永遠のいのちです。
- 23 罪の報酬は死です。しかし神の賜物は、私たちの主キリスト・イエスにある永遠のいのちです。

第7章

- 1 それとも、兄弟たち、あなたがたは知らないのですか—私は律法を知っている人たちに話しています—律法が人を支配するのは、その人が生きている期間だけです。
- 2 結婚している女は、夫が生きている間は、律法によって夫に結ばれています。しかし、夫が死んだら、自分を夫に結びつけていた律法から解かれます。
- 3 したがって、夫が生きている間に他の男のものとなれば、姦淫の女と呼ばれますが、夫が死んだら律法から自由になるので、他の男のものとなっても姦淫の女とはなりません。

- 4 ですから、私の兄弟たちよ。あなたがたもキリストのからだを通して、律法に対して死んでいるのです。それは、あなたがたがほかの方、すなわち死者の中からよみがえった方のものとなり、こうして私たちが神のために実を結ぶようになるためです。
- 5 私たちが肉にあったときは、律法によって目覚めた罪の欲情が私たちのからだの中に働いて、死のために実を結びました。
- 6 しかし今は、私たちは自分を縛っていた律法に死んだので、律法から解かれました。その結果、古い文字にはよらず、新しい御霊によって仕えているのです。
- 7 それでは、どのように言うべきでしょうか。律法は罪なのでしょう。決してそんなことはありません。むしろ、律法によらなければ、私は罪を知ることはなかったでしょう。実際、律法が「隣人のものを欲してはならない」と言わなければ、私は欲望を知らなかったでしょう。
- 8 しかし、罪は戒めによって機会をとらえ、私のうちにあらゆる欲望を引き起こしました。律法がなければ、罪は死んだものです。
- 9 私はかつて律法なしに生きていましたが、戒めが来たとき、罪は生き、
- 10 私は死にました。それで、いのちに導くはずの戒めが、死に導くものであると分かりました。
- 11 罪は戒めによって機会をとらえ、私を欺き、戒めによって私を殺したのです。
- 12 ですから、律法は聖なるものです。また戒めも聖なるものであり、正しく、また良いものです。
- 13 それでは、この良いものが、私に死をもたらしただけなのでしょう。決してそんなことはありません。むしろ、罪がそれをもたらしただけです。罪は、この良いもので私に死をもたらすことによって、罪として明らかにされました。罪は戒めによって、限りなく罪深いものとなりました。
- 14 私たちは、律法が霊的なものであることを知っています。しかし、私は肉的な者であり、売り渡されて罪の下にある者です。
- 15 私には、自分のしていることが分かりません。自分がしたいと願うことはせずに、むしろ自分が憎んでいることを行っているからです。
- 16 自分のしたくないことを行っているなら、私は律法に同意し、それを良いものと認めていることとなります。
- 17 ですから、今それを行っているのは、もはや私ではなく、私のうちに住んでいる罪なのです。
- 18 私は、自分のうちに、すなわち、自分の肉のうちに善が住んでいないことを知っています。私には良いことをしたいという願いがいつもあるのに、実行できないからです。
- 19 私は、したいと願う善を行わないで、したくない悪を行っています。
- 20 私が自分でしたくないことをしているなら、それを行っているのは、もはや私ではなく、私のうちに住んでいる罪です。
- 21 そういうわけで、善を行いたいと願っている、その私に悪が存在するという原理を、私は見出します。
- 22 私は、内なる人としては、神の律法を喜んでいますが、
- 23 私のからだには異なる律法があって、それが私の心の律法に対して戦いを挑み、私を、からだにある罪の律法のうちにとりこにしていることが分かるのです。
- 24 私は本当にみじめな人間です。だれがこの死のからだから、私を救い出してくれるのでしょうか。

- 25 私たちの主イエス・キリストを通して、神に感謝します。こうして、この私は、心では神の律法に仕え、肉では罪の律法に仕えているのです。

第8章

- 1 こういうわけで、今や、キリスト・イエスにある者が罪に定められることは決してありません。
- 2 なぜなら、キリスト・イエスにあるいのちの御霊の律法が、罪と死の律法からあなたを解放したからです。
- 3 肉によって弱くなったため、律法にできなくなったことを、神はしてくださいました。神はご自分の御子を、罪深い肉と同じような形で、罪のきよめのために遣わし、肉において罪を処罰されたのです。
- 4 それは、肉に従わず御霊に従って歩む私たちのうちに、律法の要求が満たされるためなのです。
- 5 肉に従う者は肉に属することを考えますが、御霊に従う者は御霊に属することを考えます。
- 6 肉の思いは死ですが、御霊の思いはいのちと平安です。
- 7 なぜなら、肉の思いは神に敵対するからです。それは神の律法に従いません。いや、従うことができないのです。
- 8 肉のうちにある者は神を喜ばせることができません。
- 9 しかし、もし神の御霊があなたがたのうちに住んでおられるなら、あなたがたは肉のうちではなく、御霊のうちにいるのです。もし、キリストの御霊を持っていない人がいれば、その人はキリストのものではありません。
- 10 キリストがあなたがたのうちに住んでおられるなら、からだは罪のゆえに死んでいても、御霊が義のゆえにいのちとなっています。
- 11 イエスを死者の中からよみがえらせた方の御霊が、あなたがたのうちに住んでおられるなら、キリストを死者の中からよみがえらせた方は、あなたがたのうちに住んでおられるご自分の御霊によって、あなたがたの死ぬべきからだも生かしてくださいます。
- 12 ですから、兄弟たちよ、私たちには義務があります。肉に従って生きなければならないという、肉に対する義務ではありません。
- 13 もし肉に従って生きるなら、あなたがたは死ぬこととなります。しかし、もし御霊によってからだの行いを殺すなら、あなたがたは生きています。
- 14 神の御霊に導かれる人はみな、神の子どもです。
- 15 あなたがたは、人を再び恐怖に陥れる、奴隷の霊を受けたのではなく、子とする御霊を受けたのです。この御霊によって、私たちは「アバ、父」と叫びます。
- 16 御霊ご自身が、私たちの霊とともに、私たちが神の子どもであることを証ししてくださいます。
- 17 子どもであるなら、相続人でもあります。私たちはキリストと、栄光をともに受けるために苦難をともにしているのですから、神の相続人であり、キリストとともに共同相続人なのです。
- 18 今の時の苦難は、やがて私たちに啓示される栄光に比べれば、取るに足りないとは私は考えます。
- 19 被造物は切実な思いで、神の子どもたちが現れるのを待ち望んでいます。

- 20 被造物が虚無に服したのは、自分の意志からではなく、服従させた方によるものなので、彼らには望みがあるのです。
- 21 被造物自体も、滅びの束縛から解放され、神の子どもたちの栄光の自由にあずかります。
- 22 私たちは知っています。被造物のすべては、今に至るまで、ともにうめき、ともに産みの苦しみをしています。
- 23 それだけでなく、御霊の初穂をいただいている私たち自身も、子にさせていただくこと、すなわち、私たちのからだに贖われることを待ち望みながら、心の中でうめいています。
- 24 私たちは、この望みとともに救われたのです。目に見える望みは望みではありません。目で見ているものを、だれが望むでしょうか。
- 25 私たちはまだ見ていないものを望んでいるのですから、忍耐して待ち望みます。
- 26 同じように御霊も、弱い私たちを助けてくださいます。私たちは、何をどう祈ったらよいか分からないのですが、御霊ご自身が、ことばにならないうめきをもって、とりなしてくださるのです。
- 27 人間の心を探る方は、御霊の思いが何であるかを知っておられます。なぜなら、御霊は神のみこころにしたがって、聖徒たちのためにとりなしてくださるからです。
- 28 神を愛する人たち、すなわち、神のご計画にしたがって召された人たちのためには、すべてのことがともに働いて益となることを、私たちは知っています。
- 29 神は、あらかじめ知っている人たちを、御子のかたちと同じ姿にあらかじめ定められたのです。それは、多くの兄弟たちの中で御子が長子となるためです。
- 30 神は、あらかじめ定めた人たちをさらに召し、召した人たちをさらに義と認め、義と認めた人たちにはさらに栄光をお与えになりました。
- 31 では、これらのことについて、どのように言えるでしょうか。神が私たちの味方であるなら、だれが私たちに敵対できるでしょう。
- 32 私たちすべてのために、ご自分の御子さえも惜しむことなく死に渡された神が、どうして、御子とともにすべてのものを、私たちに恵んでくださらないことがあるのでしょうか。
- 33 だれが、神に選ばれた者たちを訴えるのですか。神が義と認めてくださるのです。
- 34 だれが、私たちが罪ありとするのですか。死んでくださった方、いや、よみがえられた方であるキリスト・イエスが、神の右の座に着き、しかも私たちのために、とりなしていてくださるのです。
- 35 だれが、私たちがキリストの愛から引き離すのですか。苦難ですか、苦悩ですか、迫害ですか、飢えですか、裸ですか、危険ですか、剣ですか。
- 36 こう書かれています。「あなたのために、私たちは休みなく殺され、屠られる羊と見なされています。」
- 37 しかし、これらすべてにおいても、私たちが愛してくださった方によって、私たちは圧倒的な勝利者です。
- 38 私はこう確信しています。死も、いのちも、御使いたちも、支配者たちも、今あるものも、後に来るものも、力あるものも、
- 39 高いところにあるものも、深いところにあるものも、そのほかのどんな被造物も、私たちの主キリスト・イエスにある神の愛から、私たちが引き離すことはできません。

第9章

- 1 私はキリストにあって真実を語り、偽りを言いません。私の良心も、聖霊によって私に対し証ししていますが、
- 2 私には大きな悲しみがあり、私の心には絶えず痛みがあります。
- 3 私は、自分の兄弟たち、肉による自分の同胞のためなら、私自身がキリストから引き離されて、のろわれた者となってもよいとさえ思っています。
- 4 彼らはイスラエル人です。子とされることも、栄光も、契約も、律法の授与も、礼拝も、約束も彼らのものです。
- 5 父祖たちも彼らのものです。キリストも、肉によれば彼らから出ました。キリストは万物の上 にあり、とこしえにほむべき神です。アーメン。
- 6 しかし、神のことは無効になったわけではありません。イスラエルから出た者がみな、イスラエルではないからです。
- 7 アブラハムの子どもたちがみな、アブラハムの子孫だということではありません。むしろ、「イサクにあって、あなたの子孫が起こされる」からです。
- 8 すなわち、肉の子どもがそのまま神の子どもなのではなく、むしろ、約束の子どもが子孫と認められるのです。
- 9 約束のみことはこうです。「わたしは来年の今ごろ来ます。そのとき、サラには男の子が生まれています。」
- 10 それだけではありません。一人の人、すなわち私たちの父イサクによって身ごもったりレベカの場合もそうです。
- 11 その子どもたちがまだ生まれもせず、善も悪も行わないうちに、選びによる神のご計画が、
- 12 行いによるのではなく、召してくださる方によって進められるために、「兄が弟に仕える」と彼女に告げられました。
- 13 「わたしはヤコブを愛し、エサウを憎んだ」と書かれているとおりです。
- 14 それでは、どのように言うべきでしょうか。神に不正があるのでしょうか。決してそんなことはありません。
- 15 神はモーセに言われました。「わたしはあわれもうと思う者をあわれみ、いつくしもうと思う者をいつくしむ。」
- 16 ですから、これは人の願いや努力によるのではなく、あわれんでくださる神によるのです。
- 17 聖書はファラオにこう言っています。「このことのために、わたしはあなたを立てておいた。わたしの力をあなたに示すため、そして、わたしの名を全地に知らしめるためである。」
- 18 ですから、神は人をみこころのままにあわれみ、またみこころのままに頑なにされるのです。
- 19 すると、あなたは私にこう言うでしょう。「それではなぜ、神はなおも人を責められるのですか。だれが神の意図に逆らえるのですか。」
- 20 人よ。神に言い返すあなたは、いったい何者ですか。造られた者が造った者に「どうして私をこのように造ったのか」と言えるでしょうか。
- 21 陶器師は同じ土のかたまりから、あるものは尊いことに用いる器に、別のものは普通の器に作る権利を持っていないのでしょうか。

- 22 それでいて、もし神が、御怒りを示してご自分の力を知らせようと望んでおられたのに、滅ぼされるはずの怒りの器を、豊かな寛容をもって耐え忍ばれたとすれば、どうですか。
- 23 しかもそれが、栄光のためにあらかじめ備えられたあわれみの器に対して、ご自分の豊かな栄光を知らせるためであったとすれば、どうですか。
- 24 このあわれみの器として、神は私たちを、ユダヤ人の中からだけでなく、異邦人の中からも召してくださったのです。
- 25 それは、ホセアの手紙でも神が言っておられるとおりです。「わたしは、わたしの民でない者をわたしの民と呼び、愛されない者を愛される者と呼ぶ。
- 26 あなたがたはわたしの民ではない、と言われたその場所で、彼らは生ける神の子らと呼ばれる。」
- 27 イザヤはイスラエルについてこう叫んでいます。「たとえ、イスラエルの子らの数が海の砂のようであっても、残りの者だけが救われる。
- 28 主が、語られたことを完全に、かつ速やかに、地の上で行おうとしておられる。」
- 29 また、イザヤがあらかじめ告げたとおりです。「もしも、万軍の主が、私たちに子孫を残されなかったなら、私たちもソドムのようになり、ゴモラと同じようになっていたであろう。」
- 30 それでは、どのように言うべきでしょうか。義を追い求めなかった異邦人が義を、すなわち、信仰による義を得ました。
- 31 しかし、イスラエルは、義の律法を追い求めていたのに、その律法に到達しませんでした。
- 32 なぜでしょうか。信仰によってではなく、行いによるかのように追い求めたからです。彼らは、つまずきの石につまずいたのです。
- 33 「見よ、わたしはシオンに、つまずきの石、妨げの岩を置く。この方に信頼する者は失望させられることがない」と書いてあるとおりです。

第10章

- 1 兄弟たちよ。私の心の願い、彼らのために神にささげる祈りは、彼らの救いです。
- 2 私は、彼らが神に対して熱心であることを証しますが、その熱心は知識に基づくものではありません。
- 3 彼らは神の義を知らずに、自らの義を立てようとして、神の義に従わなかったのです。
- 4 律法が目指すものはキリストです。それで、義は信じる者すべてに与えられるのです。
- 5 モーセは、律法による義について、「律法の掟を行う人は、その掟によって生きる」と書いています。
- 6 しかし、信仰による義はこう言います。「あなたは心の中で、『だれが天に上るのか』とってはならない。」それはキリストを引き降ろすことです。
- 7 また、「『だれが深みに下るのか』とってはならない。」それはキリストを死者の中から引き上げることです。
- 8 では、何と言っていますか。「みことばは、あなたの近くにあり、あなたの口にあり、あなたの心にある。」これは、私たちが宣べ伝えている信仰のことばのことです。

- 9 なぜなら、もしあなたの口でイエスを主と告白し、あなたの心で神はイエスを死者の中からよみがえらせたと信じるなら、あなたは救われるからです。
- 10 人は心に信じて義と認められ、口で告白して救われるのです。
- 11 聖書はこう言っています。「この方に信頼する者は、だれも失望させられることがない。」
- 12 ユダヤ人とギリシア人の区別はありません。同じ主がすべての人の主であり、ご自分を呼び求めるすべての人に豊かに恵みをお与えになるからです。
- 13 「主の御名を呼び求める者はみな救われる」のです。
- 14 しかし、信じたことのない方を、どのようにして呼び求めるのでしょうか。聞いたことのない方を、どのようにして信じるのでしょうか。宣べ伝える人がいなければ、どのようにして聞くのでしょうか。
- 15 遣わされることがなければ、どのようにして宣べ伝えるのでしょうか。「なんと美しいことか、良い知らせを伝える人たちの足は」と書いてあるようにです。
- 16 しかし、すべての人が福音に従ったわけではありません。「主よ。私たちが聞いたことを、だれが信じたか」とイザヤは言っています。
- 17 ですから、信仰は聞くことから始まります。聞くことは、キリストについてのことばを通して実現するのです。
- 18 では、私は尋ねます。彼らは聞かなかったのでしょうか。いいえ、むしろ、「その響きは全地に、そのことばは、世界の果てまで届いた」のです。
- 19 では、私は尋ねます。イスラエルは知らなかったのでしょうか。まず、モーセがこう言っています。「わたしは、民でない者たちであなたがたのねたみを引き起こし、愚かな国民であなたがたの怒りを燃えさせる。」
- 20 また、イザヤは大胆にもこう言っています。「わたしを探さなかった者たちに わたしは見出され、わたしを尋ねなかった者たちに 自分を現した。」
- 21 そして、イスラエルのことをこう言っています。「わたしは終日、手を差し伸べた。不従順で反抗する民に対して。」

第11章

- 1 それでは尋ねますが、神はご自分の民を退けられたのでしょうか。決してそんなことはありません。この私もイスラエル人で、アブラハムの子孫、ベニヤミン族の出身です。
- 2 神は、前から知っていたご自分の民を退けられたわけではありません。それとも、聖書がエリヤの箇所で言っていることを、あなたがたは知らないのですか。エリヤはイスラエルを神に訴えています。
- 3 「主よ。彼らはあなたの預言者たちを殺し、あなたの祭壇を壊しました。ただ私だけが残りましたが、彼らは私のいのちを狙っています。」
- 4 しかし、神が彼に告げられたことは何だったのでしょうか。「わたしは、わたし自身のために、男子七千人を残している。これらの者は、バアルに膝をかがめなかった者たちである。」
- 5 ですから、同じように今この時にも、恵みの選びによって残された者たちがいます。
- 6 恵みによるのであれば、もはや行いによるものではありません。そうでなければ、恵みが恵みでなくなります。

- 7 では、どうなのでしょう。イスラエルは追い求めていたものを手に入れず、選ばれた者たちが手に入れました。ほかの者たちは頑なにされたのです。
- 8 「神は今日に至るまで、彼らに鈍い心と見ない目と聞かない耳を与えられた」と書いてありです。
- 9 ダビデもこう言っています。「彼らの食卓が、彼らにとって 罌となり、落とし穴となり、つまずきとなり、報いとなりますように。
- 10 彼らの目が暗くなり、見えなくなりますように。その腰をいつも曲げておいてください。」
- 11 それでは尋ねますが、彼らがつまずいたのは倒れるためでしょうか。決してそんなことはありません。かえって、彼らの背きによって、救いが異邦人に及び、イスラエルにねたみを起こさせました。
- 12 彼らの背きが世界の富となり、彼らの失敗が異邦人の富となるのなら、彼らがみな救われることは、どんなにすばらしいものをもたらすことでしょうか。
- 13 そこで、異邦人であるあなたがたに言いますが、私は異邦人への使徒ですから、自分の務めを重く受けとめています。
- 14 私は何とかして自分の同胞にねたみを起こさせて、彼らのうち何人かでも救いたいのです。
- 15 もし彼らの捨てられることが世界の和解となるなら、彼らが受け入れられることは、死者の中からのいのちでなくて何でしょうか。
- 16 麦の初穂が聖なるものであれば、こねた粉もそうなのです。根が聖なるものであれば、枝もそうなのです。
- 17 枝の中のいくつかが折られ、野生のオリーブであるあなたがその枝の間に接ぎ木され、そのオリーブの根から豊かな養分をともに受けているのなら、
- 18 あなたはその枝に対して誇ってはいけません。たとえ誇るとしても、あなたが根を支えているのではなく、根があなたを支えているのです。
- 19 すると、あなたは「枝が折られたのは、私が接ぎ木されるためだった」と言うでしょう。
- 20 そのとおりです。彼らは不信仰によって折られましたが、あなたは信仰によって立っています。思い上がることなく、むしろ恐れなさい。
- 21 もし神が本来の枝を惜しまなかったとすれば、あなたをも惜しまれないでしょう。
- 22 ですから見なさい、神のいつくしみと厳しさを。倒れた者の上にあるのは厳しさですが、あなたの上にあるのは神のいつくしみです。ただし、あなたがそのいつくしみの中にとどまっていればであって、そうでなければ、あなたも切り取られます。
- 23 あの人たちも、もし不信仰の中に居続けないなら、接ぎ木されます。神は、彼らを再び接ぎ木することがおできになるのです。
- 24 あなたが、本来野生であるオリーブから切り取られ、元の性質に反して、栽培されたオリーブに接ぎ木されたのであれば、本来栽培された枝であった彼らは、もっとたやすく自分の元のオリーブに接ぎ木されるはずです。
- 25 兄弟たち。あなたがたが自分を知恵のある者と考えないようにするために、この奥義を知らずにいてほしくはありません。イスラエル人の一部が頑なになったのは異邦人の満ちる時が来るまでであり、
- 26 こうして、イスラエルはみな救われるのです。「救い出す者がシオンから現れ、ヤコブから不敬虔を除き去る。

- 27 これこそ、彼らと結ぶわたしの契約、すなわち、わたしが彼らの罪を取り除く時である」と書いてあるとおりです。
- 28 彼らは、福音に関して言えば、あなたがたのゆえに、神に敵対している者ですが、選びに関して言えば、父祖たちのゆえに、神に愛されている者です。
- 29 神の賜物と召命は、取り消されることがないからです。
- 30 あなたがたは、かつては神に不従順でしたが、今は彼らの不従順のゆえに、あわれみを受けています。
- 31 それと同じように、彼らも今は、あなたがたの受けたあわれみのゆえに不従順になっていますが、それは、彼ら自身も今あわれみを受けるためです。
- 32 神は、すべての人を不従順のうちに閉じ込めましたが、それはすべての人をあわれむためだったのです。
- 33 ああ、神の知恵と知識の富は、なんと深いことでしょう。神のさばきはなんと知り尽くしがたく、神の道はなんと極めがたいことでしょう。
- 34 「だれが主の心を知っているのですか。だれが主の助言者になったのですか。
- 35 だれがまず主に与え、主から報いを受けるのですか。」
- 36 すべてのものが神から発し、神によって成り、神に至るのです。この神に、栄光がとこしえにありますように。アーメン。

第12章

- 1 ですから、兄弟たち、私は神のあわれみによって、あなたがたに勧めます。あなたがたのからだを、神に喜ばれる、聖なる生きたささげ物として献げなさい。それこそ、あなたがたにふさわしい礼拝です。
- 2 この世と調子を合わせてはいけません。むしろ、心を新たにすることで、自分を変えていただきなさい。そうすれば、神のみこころは何か、すなわち、何が良いことで、神に喜ばれ、完全であるのかを見分けるようになります。
- 3 私は、自分に与えられた恵みによって、あなたがた一人ひとりに言います。思うべき限度を超えて思い上がってはいけません。むしろ、神が各自に分け与えてくださった信仰の量りに応じて、慎み深く考えなさい。
- 4 一つのからだには多くの器官があり、しかも、すべての器官が同じ働きをしてはいないように、
- 5 大勢いる私たちも、キリストにあって一つのからだであり、一人ひとり互いに器官なのです。
- 6 私たちは、与えられた恵みにしたがって、異なる賜物を持っているので、それが預言であれば、その信仰に応じて預言し、
- 7 奉仕であれば奉仕し、教える人であれば教え、
- 8 勧めをする人であれば勧め、分け与える人は惜しまずに分け与え、指導する人は熱心に指導し、慈善を行う人は喜んでそれを行いなさい。
- 9 愛には偽りがあってはなりません。悪を憎み、善から離れないようにしなさい。
- 10 兄弟愛をもって互いに愛し合い、互いに相手をすぐれた者として尊敬し合いなさい。

- 11 勤勉で怠らず、霊に燃え、主に仕えなさい。
- 12 望みを抱いて喜び、苦難に耐え、ひたすら祈りなさい。
- 13 聖徒たちの必要とともに満たし、努めて人をもてなしなさい。
- 14 あなたがたを迫害する者たちを祝福しなさい。祝福すべきであって、呪ってはいけません。
- 15 喜んでいる者たちとともに喜び、泣いている者たちとともに泣きなさい。
- 16 互いに一つ心になり、思い上がることなく、むしろ身分の低い人たちと交わりなさい。自分を知恵のある者と考えてはいけません。
- 17 だれに対しても悪に悪を返さず、すべての人が良いと思うことを行うように心がけなさい。
- 18 自分に関することについては、できる限り、すべての人と平和を保ちなさい。
- 19 愛する者たち、自分で復讐してはいけません。神の怒りにゆだねなさい。こう書かれているからです。「復讐はわたしのもの。わたしが報復する。」主はそう言われます。
- 20 次のようにも書かれています。「もしあなたの敵が飢えているなら食べさせ、渴いているなら飲ませよ。なぜなら、こうしてあなたは彼の頭上に燃える炭火を積むことになるからだ。」
- 21 悪に負けてはいけません。むしろ、善をもって悪に打ち勝ちなさい。

第13章

- 1 人はみな、上に立つ権威に従うべきです。神によらない権威はなく、存在している権威はすべて、神によって立てられているからです。
- 2 したがって、権威に反抗する者は、神の定めに従うのです。逆らう者は自分の身にさばきを招きます。
- 3 支配者を恐ろしいと思うのは、良い行いをするときではなく、悪を行うときです。権威を恐ろしいと思いたくなければ、善を行いなさい。そうすれば、権威から称賛されます。
- 4 彼はあなたに益を与えるための、神のしもべなのです。しかし、もしあなたが悪を行うなら、恐れなければなりません。彼は無意味に剣を帯びてはいないからです。彼は神のしもべであって、悪を行う人には怒りをもって報います。
- 5 ですから、怒りが恐ろしいからだけでなく、良心のためにも従うべきです。
- 6 同じ理由で、あなたがたは税金も納めるのです。彼らは神の公僕であり、その務めに専念しているのです。
- 7 すべての人に対して義務を果たしなさい。税金を納めるべき人には税金を納め、関税を納めるべき人には関税を納め、恐れるべき人を恐れ、敬うべき人を敬いなさい。
- 8 だれに対しても、何の借りもあってはいけません。ただし、互いに愛し合うことは別です。他の人を愛する者は、律法の要求を満たしているのです。
- 9 「姦淫してはならない。殺してはならない。盗んではならない。隣人のものを欲してはならない」という戒め、またほかのどんな戒めであっても、それらは、「あなたの隣人を自分自身のように愛しなさい」ということばに要約されるからです。
- 10 愛は隣人に対して悪を行いません。それゆえ、愛は律法の要求を満たすものです。
- 11 さらにあなたがたは、今がどのような時であるか知っています。あなたがたが眠りからさめるべき時刻が、もう来ているのです。私たちが信じたときよりも、今は救いがもっと私たちに近

づいているのですから。

- 12 夜は深まり、昼は近づいて来ました。ですから私たちは、闇のわざを脱ぎ捨て、光の武具を身に着けようではありませんか。
- 13 遊興や泥酔、淫乱や好色、争いやねたみの生活ではなく、昼らしい、品位のある生き方をしようではありませんか。
- 14 主イエス・キリストを着なさい。欲望を満たそうと、肉に心を用いてはいけません。

第14章

- 1 信仰の弱い人を受け入れなさい。その意見をさばいてはいけません。
- 2 ある人は何を食べてもよいと信じていますが、弱い人は野菜しか食べません。
- 3 食べる人は食べない人を見下してはいけなし、食べない人も食べる人をさばいてはいけません。神がその人を受け入れてくださったのです。
- 4 他人のしもべをさばくあなたは何者ですか。しもべが立つか倒れるか、それは主人次第です。しかし、しもべは立ちます。主は、彼を立たせることがおできになるからです。
- 5 ある日を別の日よりも大事だと考える人もいれば、どの日も大事だと考える人もいます。それぞれ自分の心の中で確信を持ちなさい。
- 6 特定の日を尊ぶ人は、主のために尊んでいます。食べる人は、主のために食べています。神に感謝しているからです。食べない人も主のために食べないのであって、神に感謝しているのです。
- 7 私たちの中でだれ一人、自分のために生きている人はなく、自分のために死ぬ人もいないからです。
- 8 私たちは、生きるとすれば主のために生き、死ぬとすれば主のために死にます。ですから、生きるにしても、死ぬにしても、私たちは主のものです。
- 9 キリストが死んでよみがえられたのは、死んだ人にも生きている人にも、主となるためです。
- 10 それなのに、あなたはどのようにして、自分の兄弟をさばくのですか。どうして、自分の兄弟を見下すのですか。私たちはみな、神のさばきの座に立つことになるのです。
- 11 次のように書かれています。「わたしは生きている—主のことば—。すべての膝は、わたしに向かってかがめられ、すべての舌は、神に告白する。」
- 12 ですから、私たちはそれぞれ自分について、神に申し開きをすることになります。
- 13 こういうわけで、私たちはもう互いにさばき合わないようにしましょう。いや、むしろ、兄弟に対して妨げになるもの、つまずきになるものを置くことはしないと決心しなさい。
- 14 私は主イエスにあって知り、また確信しています。それ自体で汚れているものは何一つありません。ただ、何かが汚れていると考える人には、それは汚れたものなのです。
- 15 もし、食べ物の中で、あなたの兄弟が心を痛めているなら、あなたはもはや愛によって歩んではいません。キリストが代わりに死んでくださった、そのような人を、あなたの食べ物の中で滅ぼさないでください。
- 16 ですから、あなたがたが良いとしていることで、悪く言われないようにしなさい。
- 17 なぜなら、神の国は食べたり飲んだりすることではなく、聖霊による義と平和と喜びだからです。

- 18 このようにキリストに仕える人は、神に喜ばれ、人々にも認められるのです。
- 19 ですから、私たちは、平和に役立つことと、お互いの霊的成長に役立つことを追い求めましょう。
- 20 食べ物のために神のみわざを台無しにははいけません。すべての食べ物はきよいのです。しかし、それを食べて人につまずきを与えるような者にとっては、悪いものなのです。
- 21 肉を食べず、ぶどう酒を飲まず、あなたの兄弟がつまずくようなことをしないのは良いことです。
- 22 あなたが持っている信仰は、神の御前で自分の信仰として持っていなさい。自分が良いと認めていることで自分自身をさばかない人は幸いです。
- 23 しかし、疑いを抱く人が食べるなら、罪ありとされます。なぜなら、それは信仰から出ていないからです。信仰から出ていないことは、みな罪です。

第15章

- 1 私たち力のある者たちは、力のない人たちの弱さを担うべきであり、自分を喜ばせるべきではありません。
- 2 私たちは一人ひとり、霊的な成長のため、益となることを図って隣人を喜ばせるべきです。
- 3 キリストもご自分を喜ばせることはなさいませんでした。むしろ、「あなたを嘲る者たちの嘲りが、わたしに降りかかった」と書いてあるとおりです。
- 4 かつて書かれたものはすべて、私たちに教えるために書かれました。それは、聖書が与える忍耐と励ましによって、私たちが希望を持ち続けるためです。
- 5 どうか、忍耐と励ましの神があなたがたに、キリスト・イエスにふさわしく、互いに同じ思いを抱かせてくださいますように。
- 6 そうして、あなたがたが心を一つにし、声を合わせて、私たちの主イエス・キリストの父である神をほめたたえますように。
- 7 ですから、神の栄光のために、キリストがあなたがたを受け入れてくださったように、あなたがたも互いに受け入れ合いなさい。
- 8 私は言います。キリストは、神の真理を現すために、割礼のある者たちのしもべとされました。父祖たちに与えられた約束を確証するためであり、
- 9 また異邦人もあわれみのゆえに、神をあがめるようになるためです。「それゆえ、私は異邦人の間であなたをほめたたえます。あなたの御名をほめ歌います」と書いてあるとおりです。
- 10 また、こう言われています。「異邦人よ、主の民とともに喜べ。」
- 11 さらに、こうあります。「すべての異邦人よ、主をほめよ。すべての国民が、主をたたえるように。」
- 12 さらにまたイザヤは、「エッサイの根が起こる。異邦人を治めるために立ち上がる方が。異邦人はこの方に望みを置く」と言っています。
- 13 どうか、希望の神が、信仰によるすべての喜びと平安であなたがたを満たし、聖霊の力によって希望にあふれさせてくださいますように。
- 14 私の兄弟たちよ。あなたがた自身、善意にあふれ、あらゆる知識に満たされ、互いに訓戒し合うことができると、この私も確信しています。

- 15 ただ、あなたがたにもう一度思い起こしてもらうために、私は所々かなり大胆に書きました。私は、神が与えてくださった恵みのゆえに、
- 16 異邦人のためにキリスト・イエスに仕える者となったからです。私は神の福音をもって、祭司の務めを果たしています。それは異邦人が、聖霊によって聖なるものとされた、神に喜ばれるささげ物となるためです。
- 17 ですから、神への奉仕について、私はキリスト・イエスにあって誇りを持っています。
- 18 私は、異邦人を従順にするため、キリストが私を用いて成し遂げてくださったこと以外に、何かをあえて話そうとは思いません。キリストは、ことばと行いにより、
- 19 また、しるしと不思議を行う力と、神の御霊の力によって、それらを成し遂げてくださいました。こうして、私はエルサレムから始めて、イルリコに至るまでを巡り、キリストの福音をくまなく伝えました。
- 20 このように、ほかの人が据えた土台の上に建てないように、キリストの名がまだ語られていない場所に福音を宣べ伝えることを、私は切に求めているのです。
- 21 こう書かれているとおりです。「彼のことを告げられていなかった人々が見るようになり、聞いたことのなかった人々が悟るようになる。」
- 22 そういうわけで、私は、あなたがたのところに行くのを何度も妨げられてきました。
- 23 しかし今は、もうこの地方に私が働くべき場所はありません。また、イスパニアに行く場合は、あなたがたのところ立ち寄ることを長年切望してきたので、
- 24 旅の途中であなたがたを訪問し、しばらくの間あなたがたとともにいて、まず心を満たされてから、あなたがたに送られてイスパニアに行きたいと願っています。
- 25 しかし今は、聖徒たちに奉仕するために、私はエルサレムに行きます。
- 26 それは、マケドニアとアカイアの人々が、エルサレムの聖徒たちの中の貧しい人たちのために、喜んで援助をすることにしたからです。
- 27 彼らは喜んでそうすることにしましたが、聖徒たちに対してそうする義務もあります。異邦人は彼らの霊的なものにあずかったのですから、物質的なもので彼らに奉仕すべきです。
- 28 それで私はこのことを済ませ、彼らにこの実を確かに渡してから、あなたがたのところを通過してイスパニアに行くことにします。
- 29 あなたがたのところに行くときは、キリストの祝福に満ちあふれて行くことになると思っています。
- 30 兄弟たち。私たちの主イエス・キリストによって、また、御霊の愛によってお願いします。私のために、私とともに力を尽くして、神に祈ってください。
- 31 私がユダヤにいる不信仰な人々から救い出され、エルサレムに対する私の奉仕が聖徒たちに受け入れられるように、
- 32 また、神のみこころにより、喜びをもってあなたがたのところに行き、あなたがたとともに、憩いを得ることができるよう、祈ってください。
- 33 どうか、平和の神が、あなたがたすべてとともにいてくださいますように。アーメン。

第16章

- 1 私たちの姉妹で、ケンクレアにある教会の奉仕者であるフィベを、あなたがたに推薦します。

- 2 どうか、聖徒にふさわしく、主にあって彼女を歓迎し、あなたがたの助けが必要であれば、どんなことでも助けてあげてください。彼女は、多くの人々の支援者で、私自身の支援者でもあるのです。
- 3 キリスト・イエスにある私の同労者、プリスカとアキラによろしく伝えてください。
- 4 二人は、私のいのちを救うために自分のいのちを危険にさらしてくれました。彼らには、私だけでなく、異邦人のすべての教会も感謝しています。
- 5 また彼らの家の教会によろしく伝えてください。キリストに献げられたアジアの初穂である、私の愛するエパイネトによろしく。
- 6 あなたがたのために非常に労苦したマリアによろしく。
- 7 私の同胞で私とともに投獄されたアンドロニコとユニアによろしく。二人は使徒たちの間でよく知られており、また私より先にキリストにある者となりました。
- 8 主にあって私の愛するアンプリアトによろしく。
- 9 キリストにある私たちの同労者ウルバノと、私の愛するスタキスによろしく。
- 10 キリストにあって認められているアペレによろしく。アリストプロの家の人々によろしく。
- 11 私の同胞ヘロディオンによろしく。ナルキソの家の主にある人々によろしく。
- 12 主にあって労苦している、トリファイナとトリフォサによろしく。主にあって非常に労苦した愛するペルシスによろしく。
- 13 主にあって選ばれた人ルフォスによろしく。また彼と私の母によろしく。
- 14 アシンクリト、フレゴン、ヘルメス、パトロバ、ヘルマス、および彼らとともにいる兄弟たちによろしく。
- 15 フィロロゴとユリア、ネレウスとその姉妹、またオリンバ、および彼らとともにいるすべての聖徒たちによろしく。
- 16 あなたがたは聖なる口づけをもって互いにあいさつを交わしなさい。すべてのキリストの教会が、あなたがたによろしくと言っています。
- 17 兄弟たち、私はあなたがたに勧めます。あなたがたの学んだ教えに背いて、分裂とつまずきをもたらす者たちを警戒しなさい。彼らから遠ざかりなさい。
- 18 そのような者たちは、私たちの主キリストにではなく、自分の欲望に仕えているのです。彼らは、滑らかなことば、へつらいのことばをもって純朴な人たちの心をだましています。
- 19 あなたがたの従順は皆の耳に届いています。ですから、私はあなたがたのことを喜んでいますが、なお私が願うのは、あなたがたが善にはさとく、悪にはうとくあることです。
- 20 平和の神は、速やかに、あなたがたの足の下でサタンを踏み砕いてくださいます。どうか、私たちの主イエスの恵みが、あなたがたとともにありますように。
- 21 私の同労者テモテ、また私の同胞、ルキオとヤソンとソシパテロが、あなたがたによろしくと言っています。
- 22 この手紙を筆記した私テルティオも、主にあってあなたがたにごあいさつ申し上げます。
- 23 私と教会全体の家主であるガイオも、あなたがたによろしくと言っています。市の会計係エラストと兄弟クアルトもよろしくと言っています。
- 25 〔私の福音、すなわち、イエス・キリストを伝える宣教によって、また、世々にわたって隠されていた奥義の啓示によって—

- 26** 永遠の神の命令にしたがい、預言者たちの書を通して今や明らかにされ、すべての異邦人に信仰の従順をもたらすために知らされた奥義の啓示によって、あなたがたを強くすることができる方、
- 27** 知恵に富む唯一の神に、イエス・キリストによって、栄光がとこしえまでありますように。アーメン。 }